

希求 ～してほしい。

最期はどこにいるぞ。来いかし

基本の文法

命令形+かし がな

命令の表現に「かし」「がな」を付けると「～してくれないだろうか?」という希望を表す表現になります。この「がな」を「願いがな」ということもあります。

これ見よがし。晴れよかし。時々こなたへ来いがな。

死ねかし、打ち死に逢はれがな！（コリヤード懺悔録）

古典の例文

せめて一本なりとも都あたりへゆられゆけかし。

（卒塔婆が）せめて1本だけでも都まで揺られて届いてくれないだろうか。（平家巻1第9）

形容動詞の場合は連用形「に」+存在動詞の命令形+「かし」「がな」とします。

明らかにあれかし。

希望を強調するために文頭に「あはれ」「あはれあはれ」「願はくは」「^{こいねがわく}希は」「あ願はくは」「仰ぎ願はくは」「ああ」などが置かれることもあります。この場合でも文末には「かし」「がな」が置かれます。

あはれこれをせよかし。

願わくは我を帝王と仰がれよかし。（伊曾保のハブラス）

「がな」「もがな」は直接名詞に付けることもできます。たとえば「筆がな」とすると「筆があるといいのに」という意味になります。

古典の例文

良からう敵がな、一人。

良さそうな敵が一人いれば良いのだが。（平家巻4第9）

希望の表現である連用形+「たい」を話し相手に対して使うと「～してくれると嬉しいのだが」という非常に遠慮した表現となります。

あの経をこなたへ取りたい。